

# 令和4年度事業報告

(令和4年7月1日～令和5年6月30日)

公益財団法人 信友社

## 概況

令和4年7月より令和5年6月までの信友社の事業に関しましては昨年に引き続きコロナウイルスの影響下での活動となりました。

(公1) 関しましては新設の学校も含めて県内ほとんどの特別支援学校が信友社の助成金を活用され、生徒さん達の学習に効果をあげられております。

(公2) 関しましては、今年も熊本で活躍されている2個人2団体の信友社賞を贈呈することが出来ました。

(公3) 関しましては第5回目の「信友社ひまわり奨学生」奨学生を決定することが出来ました。5年目を迎えた中で奨学生に関する課題も出てきましたが、今後も児童養護施設にとって希望をつなぐ貴重な奨学生としての認識が定着してきたようです。

コロナ禍の状況下にありながらも、コロナウイルス対策を取りながら時にはズームを活用し、すべての事業を滞りなく行うことが出来ました事をご報告いたします。

## 公益事業内容

### 【身心的負担を持つ児童生徒等に対する奨学支援事業】(公1)

令和4年度は、県内の特別支援学校21校に合計4,018,524円を信友社助成金として助成した。

#### 〔令和4年7月～9月助成実行〕

- ・熊本県立盲学校体育文化活動振興会：九州地区盲学校体育大会遠征費用として100,000円
- ・熊本県立熊本聾学校：大学入試や就職試験に役立てるため電子辞書給付として126,000円
- ・熊本県立熊本はばたき高等支援学校：読書習慣の形成や豊かな情操を育むために図書館図書等の購入費用として200,000円
- ・八代市立八代支援学校：時刻の理解と時間の感覚を学習するため、デジタルタブレットおよび校外学習のため貸切バスの費用として200,000円
- ・熊本県立荒尾支援学校：ビーズクッションソファー、クッションプレイマット等の教具等の購入費用として200,000円

- ・熊本県立松橋東支援学校：学習用具補助用品の ICT 機器や楽器等の購入費用として 200,000 円
- ・熊本県立松橋支援学校：オンライン配信パソコンやパソコン拡張端子等の購入費用として 200,000 円
- ・熊本県立芦北支援学校：図書の蔵書数が少ないため児童の言語活動や表現の表出に繋げるため図書の購入費用として 192,524 円
- ・熊本県立鏡わかあゆ高等支援学校：体育活動に使用するソフトバレーボール等の体育道具等の購入費用として 200,000 円
- ・熊本県立球磨支援学校：児童生徒が使用する iPad ケースおよび保護フィルムの購入費用として 200,000 円
- ・熊本県立苓北支援学校：座位保持装置や使用できる電化製品や工具が増えるためのウゴきんぐ等の購入費用として 200,000 円
- ・熊本県立天草支援学校：作業学習における作業台等の購入費用として 200,000 円
- ・熊本大学教育学部附属特別支援学校：小学校では ICT 関連の補助機器、中学校では音楽教材や学習で使用するタイマー、高等部では ICT 機器の充電用ケーブルや椅子を片付ける台車の購入費用として 200,000 円
- ・熊本市立あおば支援学校：学校での祭りや地域の活動に参加するときに着用する半纏および砂場セットの購入費用として 200,000 円
- ・熊本市立平成さくら支援学校：体育大会等で活用するワイヤレスアンプ等の購入費用として 200,000 円
- ・熊本県立熊本支援学校：充実した学習活動を提供できるよう音楽では電子ピアノ、保健体育ではラダーゲッダー等の購入費用として 200,000 円
- ・熊本県立菊池支援学校：体育の授業を充実させて子供にスポーツの楽しみを感じてもらうためにモルックセットやバランス平均台等の購入費用として 200,000 円
- ・熊本県立大津支援学校：自立活動や学習で使用する教材や雑巾掛けの購入費用として 200,000 円
- ・熊本県立かもと稻田支援学校：集団活動が充実するようパラシュート、中学校では ICT を用いた活動がさらに充実するようデジタルペンシル、高等部ではバトミントン用具と書籍の購入費用として 200,000 円
- ・熊本県立ひのくに高等支援学校：陸上同好会の練習に必要な用具やバスケットボール、メディシンボール、台車等の購入費用として 200,000 円
- ・熊本県立小国支援学校：文化部で使用する用品および運動部の遠征費用として 200,000 円

## 【 学術・文化・体育等の振興に寄与する個人または団体に対する顕彰および助成事業 】(公2)

令和4年度は、2個人2団体に対し各活動についての顕彰状並びに助成金30万円、合計120万円を信友社賞として贈呈した。

### 【 個人 】

- ・石原 昌一：熊本の歴史と文化を象徴する彫刻作品を手掛ける彫刻家として、後進の人材育成と文化振興に貢献
- ・星子 桜文：低炭素社会の実現と地産地消の取り組みで地域を巻き込んだ循環型社会を構築し、地球環境保護活動に尽力

### 【 団体 】

- ・NPO法人ディスカバリーくまもと：  
英語ボランティアガイドを育成し熊本の観光地・特産品・食・自然などを世界へ発信。熊本の観光促進に貢献
- ・熊本マンドリン協会：  
プレクトラム音楽（マンドリン音楽）発展のためボランティア演奏や人材育成など多方面で活動を展開

## 【 熊本県内の児童養護施設等に在籍する生徒が進学した大学等における学資等支援のための奨学金給付事業 】 (公3)

令和4年度は第1期奨学生1名と第3期奨学生2名、第4期奨学生3名、第5期奨学生2名に合計7,673,580円を信友社ひまわり奨学金として給付した。

- ・令和4年7月～令和5年3月：第1期・第3期・第4期奨学生に令和4年度奨学金給付を実施。3ヶ月に1度程度、生活状況報告の面談を実施
- ・令和4年7月：熊本県内の児童養護施設へ新規募集案内を送付
- ・令和4年9月：新規応募者と面談、選考委員会にて新規奨学生候補者を決定
- ・令和4年10月：第3期・第4期奨学生へ継続募集案内を送付
- ・令和4年11月：選考委員会より理事会へ新規候補者決定を報告、理事会承認
- ・令和5年2月：理事会にて第3期・第4期奨学生の継続採用・奨学金額決定、第3期奨学生1名および第4期奨学生1名の奨学金継続取消決定、第5期奨学生の新規採用・奨学金額決定、奨学生認定式を開催
- ・令和5年3月～令和5年6月：第3期・第4期・第5期奨学生に令和4年度奨学金給付を実施